

「なぜ、そのときに、おまえは、お  
おきなこえで、よばなかったんだ」

「だって、そのたからものを、みんな、あたしにもたせて、はこばせながらおとこは、たんとうをもって、そばについているのですもの」「ふ

ーむ、それはたいへんだ。すぐに、へいたいにおっかけさせなくては。

しかし、おまえは、それからどうした？」「やっど、それがすんだら、

おとこは、あたしのむねに、また、たんとうをつきつけて、こんどは、

おれのよめになれって、いうんですの」「えっ。それで、おまえはどう

した」「あたしは、どうしようかと、

おもっていましたら、めが、さめち

やったの」「それは、どういうことだ」「それが、すっかりゆめなのですよ」「ばか、この、ばかひめめ。ゆめならゆめと、なぜ、はやくいわないのか」と、おうさまは、とてもはらを、おたてになりました。「まあ。それでも、ゆめでよかった。あたし、どんなにしんぱいしたかしれない」と、おきさきさまも、ほっとためいきをつきました。「おほほ。まあ、おききなさい。それからね、わたしは、めをさましてみますと、まだ、よがあけていないで、まっくらなんです。あたしは、なんだか、ほんとうに、おとこがきそうになって、こわ